

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

## 研究所三十周年記念行事-異文化間コミュニケーションの可能性-

雑誌名	アジア・アフリカ文化研究所研究年報
巻	24
ページ	249-273
発行年	1989
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00011156/">http://id.nii.ac.jp/1060/00011156/</a>



## アジア・アフリカ文化研究所創立三十周年記念

### 異文化間コミュニケーションの可能性

#### 目次

司会 研究所所長 針 生 清 人

#### I シンポジウム・異文化としての日本——留学生はこう見る——

##### 討 論

#### II 講演

人との出会い

#### III 総括討論

〈報告〉 異文化間コミュニケーションの可能性

#### はじめに

アジア・アフリカ文化研究所は創立三十周年を迎えるに至りました。創立当初は「第三世界論」が顕著であり、それは研究所の名称にも反映しているところであります。

この三十年間、世界的に見ても大きな流れの変化が見られ、大学、研究所内外においても「国際交流」が活発になって参りましたが、全体的に見れば経済・技術交流、情報収集が先行している感が強くあります。共に今考えねばならぬことは、単に文化・世界観を知ることではなく、理解し合うということではないか、また各々のアイデンティティーの確認にあるのではないか、と思われまふ。今回は、古田曉氏の講演とともに、各国からの留学生のみなさんとの対話を通じて「異文化間のコミュニケーションの可能性」を探ることに致しました。

日 時 一九八九年十月十四日  
於 一四〇番教室

### III 総括討論

Q 集団と個、対等な人格同志のかかわりについて

古田 そろそろ「先生」という言葉を止めたらどうか。とさんと呼ぶ、そうすることによって人間関係がかなり違って来るのではないか。もう一つは、日本の戸籍を止めたらどうか。個人が社会に組み込まれていて、個人

ではなくなっている。アメリカ社会では、ある組織における上下関係と、そこを離れた場合の関係とは別物であり、組織を離れた場合は、個人と個人の付き合いがある。ところが日本では、会社を離れても社長は社長である。肩書きを取り去った付き合いが必要なのではないか。

**グリーン** 賛成。真の人間関係の妨げになるものはどんどん止めた方がいい。

**陳** 上下関係とか、集団とかは日本特有なものではない。しかし、中国人は集団から離れても一人で生きていける。日本人はどうでしょうか。日本人は個性が足りないと思う。しかし集団は悪い事ばかりではない。個人々々が強すぎればバラバラになる、中国はその例です。

**ファーズネ** 集団については確かに一利一害がある。しかし日本特有の集団の意味というのがある。すなおにものが言えない。それが良い事であっても言えない。これは日本的だと思います。西洋人は自分は自分、人とは人という考え方で、また自分が一番正しいと思っている。だからよく喧嘩もする。やはり良くない面があり、バランスの問題だと思う。

**何** 日本の集団主義は良かれ悪しかれ発展の基になっている。

**張** 韓国では、集団よりも個人を大事にしていると思う。例えば個人々々は能力を持っているのに集団になると何か力が弱くなる。個があるから集団があるという考え方である。日本は、戦争の時のように国の為に自分を捨てるという考え方だ。社会のルールを守るためには集団という考えは必要である。しかし日本は集団の為に個人を失う事がありすぎる。

**フロアより** 個人―集団を考える場合、その集団というものがどの様なものか考える必要がある。近代的な意味における人間性、それは大切にしない。

ければならない。だが自分本位になったら、バイタリティは衰える。日本の集団主義で個人が犠牲になっているか、と言え必ずしもそうではなく、発言も出来る。個人と集団のバランスがうまくとれているといえる。一律な尺度で見ても、そのバランスの割合については何とも言えない。また集団主義の範囲の問題がある。①国際レベルの集団主義Ⅱグローバリズム、②国レベルの集団主義Ⅲナショナルリズム、③地方共同体、あるいは企業レベルの集団主義が考えられると思う。日本は、戦時中は②のナショナルリズム、戦後は③の企業レベルの集団主義である。日本に定着した普遍的な集団主義というものがあるか、といえば決してそうとは思わない。日本に足りないのは①のグローバリズムの集団主義で、今のところはまだ無い。基本的な人権ということで考えるならば日本人本位の基本的な人権である。自然法に基づいた基本的な人権に欠ける、これはグローバリズムとも関連している。

**Q** 異文化間のコミュニケーションを行うために、何をすべきだと思われるますか。ポイントを助言して欲しい。

**古田** 出会った時にレッテルを張らないで裸になれるかどうかの問題だと思う。裸の人間として出会えるかどうかで決まる。

**グリーン** 偏見を持たずに素直に付き合い合うことだ。

**ファーズネ** ○○人です、というより人間として考える。そして違うということに慣れることだと思う。

**張** 以前は日本について偏見を持って考えていたが、最近、いいものはいい、と言えるようになった。やはりじかに付き合い、友人を作り、違った

ものがあると理解していくことが大切ではないか。

何 偏見を持たずに、腹を割って話すことをすれば、異文化間のコミュニケーションは必ず出来ると思います。

陳 出来るだけ心を大きく広げる、心の中に出来るだけ多くのものを入れられるようにすること。

ダウリング 難しい問題だ。他の国のことを理解して、うまくやっていくかどうか、という問題について、出来るか出来ないかといわれれば、出来ると思う。しかし例えば、私は西洋人ですが、中国人や日本人の友達もいる。しかし時々、育ち方が違っていて越えられない違いがあると思う。他の国の西洋人と話す時は、言葉が違うというだけでいたい理解出来るという感じだ。東洋人と話すのは西洋人とのそれより難しい。話す前に考えておかねばいけないと思う。私には日本人の友達が沢山出来ている。その友達とどうやって楽しく遊ぶか、というパズルのヒントは、極端な意見を出さないこと。例えば、私はビーチに行くのは嫌いです。でも大抵の人は好きです。この様な場合、「ビーチに行くのはいいね」と言った方がコミュニケーションが通じやすいと思う。また違う国の人を理解しようとする場合、その国の歴史を知ることが必要だ。そうすれば分かり易くなる。世界の国がもっと教育制度を改革して、いろいろな国のことが理解出来るようにすれば、もっといいと思う。

#### 総括(司会)

本日のテーマの総括をすることは大変難かしい。それぞれの国の歴史、文化、伝統を知り、心を大きく広げ、知ろうという気持を持てば可能性は広がる。個々の人間がそのような可能性を求めることだ。皆さん同士可能

性をもとめ、深めて、皆さん自身で総括を出して下さるようお願いします。

(午後五時三〇分終了)

以上のほかにも、「愛」をめぐる議論について、古田氏は、プラトンも言っているように、愛の問題は単純ではない。日本の愛はごく最近のことで、それまで愛し合うことはなかった。惚れる、慕うという言葉の一方通行のものが多く、対等な人格として愛を語っているかどうか分からない。あるいは、集団主義と個人主義のテーマについて、ダウリング氏は、日本は集団主義というが、自分が意見を言う前に相手がどう思うかを考える。グループより自分を大切にしているせいではないか。オーストラリアでは自分の意見を出し合い、討論し、よい意見をとる。この方が集団主義なのではないか。また、そのほか日本人の情緒形成について儒教思想、仏教思想あるいは神道との関わりから出された意見、一つの文化を理解することと、一人の(外国人である)友人を人間として理解することとは別である等々、様々なご意見が出されました。全てを紹介出来ないことは残念であります。以上をもって報告と致します。

(この報告は、当日のテープをもとに研究所において編集したものです。